

富士市立高等学校学校運営協議会準備委員会

第5回 議事概要

- 開催年月日 平成24年3月15日(木)
- 開催時間 午後6時30分から午後8時30分
- 開催場所 富士市立高等学校図書室
- 出席者 [学校運営協議会準備委員会委員]
安藤 肇 奥園好文 加納孝則 高田 稔 内藤栄一
畑 隆 増田正之 渡邊利夫 渡辺泰明

[教育長]
山田幸男

[教育次長]
鈴木清二

[教育総務課・市立高校]
池田和明課長 他教育政策担当
齋藤照安校長 小林政樹事務長 他教職員
- 会議の概要
 - 1 開会
 - 2 委員長あいさつ
皆さまこんばんは。早いもので富士市立高等学校が発足してからおよそ1年が経とうとしております。今日の準備委員会は、年度の終わりに当たりまして、この1年間の学校運営と準備委員会の活動をテーマとして開かれます。後に本格的な学校運営協議会が発足されるのに当たって、参考となるような忌憚のないご意見を是非よろしくお願ひします。
 - 3 議事
 - (1) 平成23年度 学校評価結果の報告について

(副校長より説明する。さらに、評価に携わった委員から一人ずつ以下のコメントをいただく。)

[A委員]

現場の教職員の皆さんが一生懸命子どもたちに接してくださっている姿は、後援会の活動を通して十分に拝見させていただきました。よその学校に比べても、本当に丁寧に子どもたちを誉め、諭してくれていると感じます。先日、卒業式に出席させていただきましたが、今年は全商3冠（全国商業高等学校が主催する検定のうち、3種目で1級を取得すること）の生徒が36名も出たということでした。今年の卒業生は、前の吉原商業高校時代に入学している子どもたちです。ですから、入学の段階から高い能力があった生徒というわけではありません。そういう子どもたちが、先生方と関わり一生懸命努力をして、あれだけの資格を取得したのです。私はこの結果から、入口のところで選抜をして優秀な子どもだけを集めるのではなく、意欲のある子どもを入学させ、この学校で開花させて、いろいろな意味で自分を高めさせることが大事だと感じています。今回、ビジネス探究科で定員を割ってしまったということですが、入口のところでは、大勢の生徒に来てもらい、この学校に来てから先生たちの下で一所懸命頑張ってもらえたらと思います。是非、敷居は低くして欲しいと思っています。

[委員長]

富士市立高校の発足以降、先生方が非常に頑張っていることが感じられ、どういうコメントを書いたら良いのか、かなり逡巡しました。しかし、今後のためにも一歩踏み込んだ意見を述べさせていただきべきではないかと考えまして、ところどころ、厳しい表現を書かせていただきました。

先ほど、副校長からスポーツの話が出ましたが、まず、そういう点で市立高校の生徒の頑張りが社会的に発信されているとののは、うれしいことだなと感じました。それに加え、吉商本舗など文化部の皆さんも頑張っていると思うので、こちらをもっと発信して欲しいと思います。富士市立高校のことをもっと市民の皆さんに知ってもらうために、探究学習やサテライト学習など、今回新しく取り組まれた教育上の試みをいろいろな形で数カ月おきに発信することが大事だと思います。実際、これまでの学校の歴史が成果につながっていると思いますが、資格取得の面でも成果が生まれていることを、市民の皆さんにアピー

ルしていく必要があると思います。ビジネス探究科の資格取得というのは、新しい学校になってからも力を入れているんだということをアピールすることが、定員の充足にもつながると思います。

[B委員]

まず、どういうポイントで評価を付けて良いのか非常に難しかったのですが、自己評価である学校の基準をベースにそれぞれの項目について考えさせていただきました。今の2年生、3年生である吉原商業時代の生徒に新しくカリキュラムが変わった1年生をプラスして、学校全体としてどのようにモチベーションが上がったのか、概論的に評価をさせていただきました。そういう意味では、学校全体としての評価が上がったのではないかと思います。これは50周年を迎えた伝統と新しい富士市立高校が生まれたという学校全体としてのモチベーションの高さが、それぞれの生徒の皆さんの基準を大きく上回った結果だと思っています。

それから、情報公開についてですが、やはり、新しいことにチャレンジしているので、理解をされにくい部分があるのは当たり前です。ですから、個人情報には難しい部分があると思いますが、一般市民、地域の方、産業界など、学校を支えていただくすべての方に、できるだけわかりやすい形で、情報公開をしていただきたいと思います。先生方が授業だけでなく、部活動や課外活動、キャリア教育など、夢教育に向かった探究の推進に向けて大変なご努力をいただいているということは聞いているのですが、新しいものにチャレンジすることですので、さらなるスキルアップを目指して、是非、先生の研修を充実していただきたいと思います。先生のスキルアップが生徒のモチベーションアップにつながると 생각합니다。その点で、今の研修の評価を厳しくさせていただきました。

[C委員]

私は、中学校の現場にいますので、中学校の現場として見たり聞いたりしたことを基準にして、評価をさせていただいたり、具体的に意見を書かせてもらいました。私が書いたことは、現場としてこうあって欲しいという願いも入っていることを承知してください。

例えば、このようなことを書きました。「今までの良さをアピールすることは大切であり、そのために2年3年の頑張りを見せて欲しい。」先ほど卒業式で36人が表彰されたという話がありました。新しい市

立ということ、1年生を中心ということは十分わかります。ですが、50年という歴史がありますので、その歴史も見させていただくことによって、子どもや保護者の見方は変わってくるのではないかと思います。こういう伝統がある学校だというアピールは絶対必要だと思います。

先生方の頑張りは、中学校の現場において子どもから伝わってきます。昨年の送り出した1年生から生の声が聞こえてきます。

また、運動部の頑張りが良く発信されていると思いますが、文化部の方はどうでしょうか。その辺が私としては、少し不満です。例えば、今まで結構、吉商本舗がいろいろな場面で新聞に出ていましたが、最近はどうでしょうか。運動部の方が前面に出てしまって、せっかくある吉商本舗が今、どうなっているのかなと考えますと、ビジネス探究科と吉商本舗の関係が見えてこなくなってきました。

最後に各探究科のアピールですが、もう少し、学校現場へアピールをお願いしたいと思います。先日、県立高校の志願状況が発表されましたが、県内の商業科を持つほとんどの学校は定員を超えていました。それなのに、市立高校のビジネス探究科では定員に達していません。その原因は、やはり、アピールに問題があると思います。先ほど言いましたが、吉商本舗というあれだけマスコミに出ていたものが、急に出てこなくなってしまった。あれだけアピール性のあったものが最近余り聞かない。その辺の発信の仕方に問題があるような気がします。

[委員長]

只今、私を含めまして評価に携わった4人の委員からご説明いただきました。ここで、他の委員からもご意見があれば出していただきたいと思います。

[D委員]

私も後援会という立場で生徒に接する機会を頂いていますが、具体的な個々の目標に対して実態がどうだったかとなると、残念ながら感覚でしか判断できません。企業ですと数値化した目標を掲げ、それに対して活動に取り組み、その中でPDCAのサイクルを回しながらものごとを進めていきます。やはり、学校でも達成目標の中に、例えば全商3冠が何人ですとか、部活動なら過去の実績から設定した目標だとか、サテライト学習なら参加人数など、できるだけ目標を数値化すべきだと思います。目標を数値化することで、達成感も大きく違って

きます。

[E 委員]

今年の生徒募集で、ビジネス探究科が2年連続で定員を割っているという話がありました。私も県立高校の経験がありますが、一般的に学校の説明は、教員である校長、副校長、教頭などが中学校を訪問したり、あるいは説明会を設け、多くの保護者や生徒に説明します。先日、校長に伺ったところ、市立の場合はシステムが違い、市の担当者が中学校を回ったり、説明会で説明するということでした。要するに、実際に生徒の指導にあたり、その実態をわかっている教員が説明をしていないという状況です。このシステムをとって定員割れという、2度も同じことを繰り返しているとなると少し考える必要があると思います。やはり、中学校の現場には高校の様子が一番わかっている人が、きちっとした説明をする必要があります。

[F 委員]

私は、学校のPR活動が足りないと思います。学校のためを思うならば、トップ自らが汗を流して、我々にできることは何かをどんどん言ってもらったり、あるいは我々にもっと任せるべきだと思います。私は、富士・富士宮地区にあるタウン誌に、市立高校の特集を毎週掲載するようにお願いしています。野球部、サッカー部、体操部など、いろんなところに取材に来てくれています。その取材に来てくれる方が「学校の反応が鈍い。」と言っています。それは、このタウン誌がうまく使われていないということだと思います。もっとこのタウン誌を上手に利用して欲しいと思います。また、こういう会議がある時には、2月号あたりが委員のみなさんのテーブルの上に乗っていて、「先月はこういう特集が載っていましたよ。」と事務局から説明があつてしかるべきだと思います。もし、私が「やれ。」と言われたら、商工会議所の人間を動かします。是非、その辺の汗をかくことをやって欲しいと思います。

もう一点です。ビジネス探究科がなぜ定員割れを起しているのかについて娘や仲間にも聞いているのですが、話を総合すると「何か一つ魅力が欠けている。」ということです。就職率が悪いから行かないというのも耳にしていますが、それなら就職率を高めることをみんなで考えれば良いと思います。商工会議所に言っただけならば、企業のトップに講話をしてもらい、トップ自らがうちの会社はこうだよ、企業

とはこういうもんだよと働くことの尊さを話してもらえます。社長も講話でいろいろなことを言った以上は、市立高校から1人2人は採用してくれると思います。また、先ほどE委員もおっしゃっていましたが、私はこういう授業をやっている、こういう思いを持って子どもたちに接しているという先生が中学へ出かけて行って話をした方が良いと思います。現場を良く知っている人が生の声を発信した方が私は受ける人の感動が大きいと思います。

今いる生徒たちの評判はこの近隣で非常に良く、私も心地良い思いをしています。これは先生方の力だと思います。問題は、D委員のおっしゃるように数値目標を持つこと、ここまでもっていきこうという形を作っていくことだと思います。

[G委員]

私の視点は、私達が義務教育で大切にしてきたことが市立高校の授業の中でどれだけ活かされているのか、ということです。具体的には、生徒が主体的に授業に取り組んでいること、これが一番の大きなポイントです。その点で先生によって差があるというのが、授業参観した指導主事からの正直な感想です。

そこで教員の資質を上げるためにも、どういう授業が良いのかをもっと検討すべきです。ただ、大学受験があるものですから、そういうことも考えて、どういう風に自分たちの力で知識や技術を獲得させていくのか、それを定着させるにはどういう方法があるのか、こうした共通意識を持って取り組む必要があります。

校内研修で何をやるのかといった時に、今日の校内研修は1年間の研修の中でこういう位置付けであり、ここでこういう力を発揮していくということが、なかなか明確になっていない場合が多いです。やはり、1年間を通して、ここではこれをはっきりさせる、ここではこういうものを身に付けさせるという風に、具体的にきちっと1年間を見据えた上で、研修を位置付けていく必要があります、是非、市立高校でも1年間を見据えた研修をやっていたらと思います。

[H委員]

皆さん富士市立高校に変わって大変期待しているようですが、1年2年では結果は出ないと思います。1年ごとに歴史が積み重なることによって生徒が部活動で活躍したり、進学実績が出たり、それが積み重なってくれば何年後かに変わってくるだろうと思います。

私が一つ耳にしたのは、学校の名前は変わったけれども、先生方は変わっているのかという声です。これまでの商業科から3つの学科を持つ学校へと変わったわけですから、普通の県立高校よりも大幅な異動があれば、学校がもっと変わっているようにイメージできるのです。

[委員長]

皆さんから様々な意見をいただきましたが、今後の参考にさせていただければと思います。

それでは、次に「学校運営協議会のあり方・進め方について」の協議に入りたいと思います。まず、事務局から今後の進め方についての説明をお願いします。

(事務局から「学校運営協議会の今後の進め方」について説明する。)

[委員長]

事務局からこの1年間を振り返る形で説明がありましたけれども、ただいまの説明について、何かご質問はありますか。

特にないようですので、次に進みたいと思います。ただいまの説明にありましたが、協議会の本格的な準備は来年度になります。その準備の手助けとなるよう、試行的にやってきましたこの1年間を振り返りながら、学校運営協議会のあり方・進め方につきまして、皆さんからご意見をいただきたいと思います。

この準備委員会も5回開催されましたが、回数や開催時期、さらに、内容につきましても様々なご意見をいただければと思います。

[B委員]

ただいまの事務局の説明では、平成24年度からは準備委員会というものではなくて、組織的なものを市と学校で考え直して、その次の年に運営協議会としてスタートするということだったのですが、先ほど委員からはかなり共通の課題が抽出されています。世の中、スピード化を求められている時代に、この1年間、そういう課題をまったく放っておくという訳にはいかないもので、せつかく具体的に出ている課題については、早急に解決に向けて取り組んで欲しいと思います。先ほど出てきた先生方の研修や広報の形などは今すぐにでもやっていただかなければならない課題なのに、このまま組織としての協議会を待つだけで、具体的に前に進まないような気がします。やはり、出てき

た課題の解決については、即やるのが良いと思います。

[F委員]

賛成です。出てきた課題に対しては1年も放っておけません。私は商工会議所を代表してこの会に出ているものですから、私の得意分野については、是非、お任せいただきたいと思います。例えば広報、PR活動ですとか、一番課題になっているビジネス探究科の定員割れに関連した就職率の問題。これを高めるために市内企業との懇談会を商工会議所でやります。先生から依頼されれば、一人でも多くの子どもが希望しているところへと行けるような汗はかきたいと思っています。

[H委員]

前回、学校運営協議会規則の説明をしていただいたのですが、その中で、「校長が示す基本方針や学校運営については、協議会の承認を得るものとする。」とありました。ですから、協議会というのは、集まってその人たちがどうのこうのやるのではなくて、学校が取り組んでいることの説明を受けて算段するのかなと思っていたのですが、皆さんの話を聞いていると、いっしょになって基本方針などを作り上げるように思えたのですがそういうことなののでしょうか。協議会の役目が少しわからなくなりました。

[事務局]

協議会が学校の基本方針を承認にすることは、法律で定まっています。学校が原案を作って説明をし、協議会に承認してもらうというスタンスは変わりません。基本方針については、委員から若干のアドバイスをいただくことはあっても、委員からの発言で大きく方向を変えるようなことはありません。

[H委員]

そうであれば、そんなに間をおかなくても、学校運営協議会はいつでも作れるのではないですか。

[B委員]

1年も置かずに、すぐにステップアップした素案を作って始めたらどうでしょうか。こういう課題は難しいからみんなで討論しようというテーマが出てくれば、その都度やれば良いと思います。仕組みを作

ることに時間を掛けてしまうと本当にもったいない気がします。学校の皆さんといっしょになって、地域と一体となって育てようということで生まれた学校ですから、そういうことが健全に反映されるような協議会でありたいと思っております。

前回のご説明ですと、市立高校としてこの協議会を作るという方向は決まっているけれども、市内の小中学校でも追々、全体に反映させていきたいというお話でした。これは一つのモデルケースになると考えていますので、そういったところはじっくりやっていただければ良いと思いますが、高校の直近の課題については、どんどんやっていけばいいんじゃないかと思えます。

[委員長]

ここまでの話は、この1年間を振り返る中で各委員から挙げた課題について、次年度に早急に取り組んで欲しいということだったと思います。そのこと自体は、とても大事なご指摘であり、複数の委員から出された意見を学校も念頭において取り組んで欲しいと思います。しかし、そのことと学校運営協議会という組織体をどう進めていくべきかという問題は、若干論点が異なると思います。今回の論点は、本格的に始動する学校運営協議会の組織をどういう風に設計するのか、その運営をどうするのかという話です。

ただ、出された意見については、私も共鳴するところがあり、特に研修の面の強化をお願いしたいと考えています。2年後には学校の評価が、かなり富士市内で固まってきます。つまり、今の1年生の受験結果がその時はっきりします。市立高校に対する市民の見方がそこでかなり大きく影響を受けると思います。ですから、そのことを念頭に置きながら、受験のことを意識した教育内容の改善をどんどん進めていかねばならず、今がその時期だと思います。やはり、2年生の時が勝負であり、生徒の力がぐんぐん付いてくると思いますので、この時期に先生方がどういう風に受験を意識した勉強をさせるのかということが大事だと思っています。その点から、先生方の研修というのは非常に重要であると思います。

さて、少し話を戻しまして、やがて正式に発足する学校運営協議会をどのように進めていくかに絞ってご意見をいただきたいと思えます。

[F 委員]

たたき台のようなものはないのですか。

[委員長]

たたき台は、用意されていませんが、これまで5回会議が開かれて、ここにあるような内容で行われたのですが、この次の協議会もこの内容で良いのか、それとももっと回数を増やした方が良いのか、そういうことが検討されるべきことかと思えます。

それでは、口火を切らせていただきます。1学期の実施報告は8月の時点で受けましたが、2学期の実施報告を受けていません。評価の文書の中に書かれていると言われればそうなのですが、これだけ読むだけではなかなか評価をしづらかったです。今回、1学期の実施報告書を読み、それを大きな材料にして評価を付けさせていただきました。あれから数ヶ月間の期間がありましたから、2学期の実施報告も受けたかったです。その点からすると、1月の会議で実施報告を受け、次の会で評価会議を持つという流れができれば、一層この学校を理解した上での評価になるのではと思いました。

[事務局]

実は、4回目の会議では2学期の実施報告を行う予定でした。しかし、3回目の会議を反省する中で、会議がQ&Aに終始し、協議の形になっていないという点が問題になりました。そこで、予定を変更してスタイルを変え、テーマによる協議をさせていただいたわけです。当初は、学期ごとに実施報告をし、それについてアドバイスをもらう予定でした。そういった意味でこの会の進め方について、事務局でも試行錯誤しながらやってきました。この会議自体も形を変えながらやってきており、教育活動の報告をし、それについて助言を受ける形が良いのか、それともテーマによる協議の形が良いのか、事務局も迷っているというのが現状です。

また、回数についても、本来であればもう少しやれたら良いのですが、委員の皆さまも大変お忙しく、限られた時間の中でどれだけのことがやれるかという点でも、皆さんからお知恵を借りたいと思います。

[A委員]

学校運営協議会が、学校側の基本方針の承認を得る場の位置付けであれば、協議会からのアドバイスをいただくという方法しかないのではと思います。この協議会の中で何かを提案して、それを反映させるというのであれば、メンバーの協議も活きると思うのですが、そうでないならば、学校から報告を受け、それについてアドバイスするとい

う形しかないと思います。

[B委員]

以前の感じでは、市立高校の学校運営協議会は、私学にあるような理事会を代行するような会なのかなと思っていました。積極的に何らかの提案をさせていただきながら構築していく会だと。第4回目に協議会規則の説明が出てきて、そこから考えますと、この規則は押しなべて富士市全体に出していく部分なので、非常にフォーマルなものです。しかし、市立高校なりの特色など各学校にはそれぞれの独自性があるので、それに見合ったものを作るための議論をするのであれば、いろんな意見もいえるのですが。今のポジションでは、学期ごとの報告をしてもらって、それについてどういう風にしていくかということではないと思います。

[委員長]

そうしますと、学校運営協議会のあり方の話をしなければならないということですかね。どういう性格の会議なのか。その点ではどうなのでしょう。あり方ということが、進め方に関連してくるようですが。あり方という点では、どうあった方が良いでしょう。

[F委員]

私は、我々準備委員が集い、いろんなテーマで話し合ったことが今後の学校運営に活かされるのだと思っていました。活かされるというか、良いことだったら採用されるというか。ですから、学校が決めてきたものをただここで聞いて承認するだけであれば、もう無駄だなと思っています。せつかく来たからには、何とか魅力ある学校にしたい、夢実現のために我々がどういう形でお手伝いできるかを考えたいと思っていましたので。

[事務局]

学校運営協議会規則について、もう一度確認しておきたいと思います。承認というのは、基本方針についての承認です。ですから、学校運営など具体的な教育活動については、協議会にアイデアがあってそれを学校に対してどうだろうかと提案することは、十分可能です。学校がすべて決めてしまい、それを協議会で話し合うということではなくて、協議会で生まれた意見を学校側に提案することは十分できます。

[H委員]

そうであれば、学期ごとに振り返って、それを次の学期に活かしていくような会を積み重ねていけば、自然と良いものができるのではないのでしょうか。1年後などと言わずにすぐに立ち上げて、規則に載っている地域住民や保護者の人選をして、みんなの意見を伺いながらスタートすれば良いと思うのですが。

[委員長]

立ち上げの時期については、県、市における初めての組織ですので、もう少し助走期間を設けて慎重に進めたいという意向があると思います。今回はこれを市に投げかけるという程度に止めまして、どれ位の回数を、どういう時に、どういう内容で進めたら良いかについてのご意見を伺いたいと思います。

私が思うには、8月から1月までかなり間がありますので、10月頃に開かれる学園祭を見ながら会議もという機会を作ったらどうかと思います。以前、別の高校で学校評議員をした時にそのようなことがあって、生徒の生き生きした様子などが伝わってきました。授業参観ももちろん大事ですが、そうした生徒たちの活動に触れるということも委員として必要です。

[D委員]

今回は準備委員会ということで、5回開催したのですが、最低3か月に1回くらいの頻度でやらなければいけないと思います。

そして、今日、学校の評価報告を受けて部活動で全国大会にしていることを初めて知る方もいるのではないかと思うのですが、3か月ごとの開催であれば、3か月ごとの特記事項を委員の皆さんに情報として知ってもらう必要があると思います。私たち委員も何となく感覚でしか判断できないところもありますので、数値で知るのと同時に、そういう情報もできるだけ知っているとは判断する材料になります。

[C委員]

この会は、学校運営協議会を準備するためのものですが、中学校の現場には学校評議員があります。参考として、本校の例を紹介したいと思います。

本校では6名の方に学校評議員になっていただいています。年間、3回の開催です。今年は、6月早々に第1回を開きました。この時は

私の方から学校経営方針を説明しましたが、それに対して外から見た実態に合わせて学校経営案が妥当かどうかについてご意見をいただきました。その後、実際に各教室で子どもの姿を見てもらい、改めてもう一度経営に対してご意見をいただきました。

2回目は、10月に行いました。その時は運動会に来てもらいました。それから、10月末の授業参観にも来ていただきました。その中で、既に提示した学校経営案が円滑に運営されているかを判断していただきました。そして、先生方の授業はどうでしょうか、子どもの反応はどうでしょうかというように具体的に意見をいただきました。給食も食べてもらい、掃除や部活動も見えていただきました。

3回目は2月に行いました。ここでは、職員の自己評価を評議員に見ていただいて、授業を見ていただいた様子、それから外から見た様子で具体的な言葉による評価をしていただきました。それを基にして、来年度の経営構想を作成しているという状況です。たぶん、どこの中学校でもこのようなやり方で学校評議員会をやっていると思います。学校運営協議会もそれに近いものかなと思いますので、参考にしていただけたらと思います。

[F委員]

私は、議事の順番を工夫すれば、もっと中身が濃くなるのではないかと考えています。例えば、D委員がおっしゃいましたが、ここ3カ月くらいに学校で行われたいろいろなものに関する資料を提出してもらい、その報告を聞いてから議事を進めていけば、もっと話はスムーズにいくと思います。会議に情報不足で来てしまっているものですから、なかなか自己評価を見ても意見を言えません。このように集まるのが大変であれば、いろいろな行事の後に報告書をもらえると大変参考になります。

[G委員]

小中学校の現場では、学校評議員という形でやっているのですが、その時に一番重要なのが子どもたちや保護者へのアンケートです。最初に学校経営では、こういうことに重点を置いて、それについては、このように評価しますという説明をします。そして、アンケートによる中間集計をしたときには、子どもの実態や意識はこうです、保護者はこう捉えています。ですから、学校としては課題をこう捉え、それを解決するためにこういう具体策を打ちます。それについて、どうで

しょうかという聞き方をします。中心となっているのは、あくまでも子どもですので、子どもが今どう思っていて、何が子どもの姿から考えられるか、その後ろにいる保護者は今、何を感じていて、何をして欲しいのか、そういう部分を洗い出せば、そこから課題は見つかります。そして、この課題に対してこういう取組をしていきます、それに対してどうでしょうかというように会を進めていけば、内容も充実すると思います。

[E委員]

学校評議員は、校長に対してアドバイスするシステムですが、この学校運営協議会というのは、そうではありません。小中学校の学校評議員は、学校から教育活動の説明をして、それに対して、地域の方や保護者からいろんな意見を伺って、それを参考に新たな課題を出して実践をしていくということで機能していけば良いのですが、この学校運営協議会は、もう少し立ち入って、学校運営にもっと積極的に関わって、方向すら左右する位の機能を持っている組織だと思います。ただ単に校長に対するアドバイスではなくて、もっと言えば、人事に口を出しても良い位なイメージだと思っていました。ですから、そのためには学校がどうなっているかを良く知らなければなりませんので、学校評議員でやっているような学校行事に参加することで、子どもの実態や先生方の動きを見ることも大事です。また、この会議では、校長の基本的なものの考え方、教育方針については、正式にそれを出す前にこの会を出してもらい、その中で協議する位の意識でいました。

[B委員]

私もE委員と全く同意見です。学校評議員があつて、その上で小中学校に対してもこういう協議会を作っていきたいと思いますという方向性が出されたわけです。ですから、全く違うものが運営されると思っておりまして、今後もそう思います。評議員があるので協議会はもう少し待って、まず評議員でやっついていこうという学校があつても良いと思うのですが、協議会の設置は暫時やっついていくという説明が事務局からもありました。特に富士市立高校に関して言えば、キャリア教育を標榜しており、キャリア教育の一番大事な概念は、社会、地域、産業界が一体となって教育の援助をしていきたいと思いますという考え方です。前回も言わせていただきましたが、学校と子どもたちあるいはPTAのWIN-WINの関係だけではなく、社会もいっしょになって、三者

がWIN-WIN-WINの関係にならないといけないという世の中の風潮があります。そういう社会環境をこの協議会で是非練らしていただいて、ここの意見が反映されていけば良いと思います。

[E委員]

こうした性格を持つシステムを持っているのは、主に私立の学校だと思いますが、公立校の中で、市立高校の学校運営協議会がどの程度新たなものをやっていけるのか、大変期待しているところです。公立高校で学校運営協議会をやっているのはまだ少ないでしょうから、市立高校が画期的なことを提案してくれたなと思っておりました。

[委員長]

学校運営協議会の想定されているスタイルは、ものを言う評価機関ということで考えられているので、E委員やB委員の言われたことは、その理念と合致していると思います。学校運営協議会は、学校評議員よりもう一步踏み込んだ機関として捉えて良いと思います。

[E委員]

それ位重い機能を持った会議ですから、その回数についてもあと1回位、例えば10月頃に一度開催しても良いのかなと思います。

[B委員]

事務局には我々が忙しいということで、すごくお気遣いをしていただいているのですが、委員の何名かが集まれば、必ず全員が揃わなくても良いと思います。ある程度推敲していくためには回数が必要で、かなり立ち入ったところまで見せていただいたり、情報を公開してもらう必要があります。ですから、忙しいので回数を制限するのではなく、もっと回数を増やして、なるべく委員の皆さんに学校に来ていただく機会を設けて、選定された皆さんがそこに積極的に関わっていくというのが運営協議会なんだろうという気がします。

[委員長]

少し角度を変えまして、協議会の人数ですとかメンバーの構成についてご意見をいただきたいと思います。

[F 委員]

許されるかどうかわかりませんが、学習塾の経営者などはどうでしょうか。変わった視点からものを言ってもらえるかもしれません。

[B 委員]

ある程度の経営規模に達していれば可能かも知れませんが。

[F 委員]

別に富士市内でなくても、静岡市からでも良いし、他県からでもかまわないと思います。

[B 委員]

この地域に限定せず、そのように柔軟に人を選定していただくのは良いことではないでしょうか。

[D 委員]

授業が終わった後に、入ってもらっている今の塾を活用するというのも考えてみてはどうですか。せっかく入っているのですから。

[B 委員]

少し極端かもしれませんが、外国の方に入ってもらうのはどうでしょうか。外から見た視点を入れていただいたり、我々にはない角度からものを見てもらえます。

[F 委員]

一人ぐらい女性を入れた方が良いと思います。女性の柔らかいものの見方も必要だと思います。もっと現実的な意見も出るとと思います。

[委員長]

そろそろ時間も迫ってまいりましたので、協議会に関する協議はこのあたりで終了したいと思います。

本日も皆さんからたくさんの貴重な意見やアドバイスをいただきまして本当にありがとうございました。いただいたご意見につきましては、再来年の本格実施に向け、是非、学校及び教育委員会の方で次年度の準備に役立てて欲しいと思います。

それでは皆さん、1年間本当にごくろうさまでした。

4 教育長あいさつ

皆さま本当にありがとうございました。今日も皆さんからたくさんのお意見を伺っていただきました。挙げていただいたほとんどのご意見は、喫緊の課題だと思いまので、運営協議会があるなしに関わらず、すぐにも学校と教育委員会が皆様方のお知恵を借りて解決に取り組むことは可能だと思います。

私が大変うれしく思ったのは、夢実現の学校であるから子どもたちのために何とかしてあげたいという声を委員の皆さんからたくさん聞いたことです。こうした声を受けながら、学校、そして教育委員会も頑張っていかなければと思います。

それから、評議員と協議会は違うのではないかというご意見がありました。運営協議会規則は、市として作ったわけですから、市立の小中学校にも関係してきます。できれば、市立高校の規則と小中学校の規則を別にすれば良かったかもしれません。ただ、小中学校と市立高校とで協議会の形は違ってしかるべきだと思います。

今日の話合いを聞いていて、こうした話し合い自体がすでに運営協議会になっているのではと思いました。いずれにしても、子どもたちのためにやっていくんだという点は、皆さん一緒だと思います。また、校長先生に強くお願いしたいのですが、今日おいでいただいている委員の方に、今後是非相談をかけていただいて、頼めることはどんどん頼んで、活用させていただくところは活用させていただければと思います。

とにかく学校の先生方が動かなければどうにもなりませんので、先生方を主体とする学校と今日おいでの皆さん方と教育委員会とが一体となって今後取り組んでいけたらと思います。

最後になりますが、先日市内のある地区で梅まつりが行われました。そこに市立高校の吹奏楽が来てくれました。演奏後、すぐに三島の方へ行くという忙しい中で、わざわざ小さな地区に来てくれました。地区の年寄りが「今度市立高校になったね。初めて演奏に来てくれたね。」と大変喜んでいました。市立高校は富士市の学校なんだなとそのときつくづく思いました。

本会もこれまで5回開催しましたが、委員の皆さんには大変無理をして出ていただいたものと感謝しております。本当にありがとうございました。今後もいろいろな面でご指導ご鞭撻をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

5 閉会